

## 第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和4年8月9日（火）午後2時00分から午後4時00分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、鈴木委員、牛島委員、桑原委員、山本委員  
石川委員、藤田委員、糠谷委員、平間委員、小玉委員  
吉中委員、飯沼委員、山崎委員、横井委員 （計14名）  
※欠席委員 荒木委員、菊地委員、片岡委員、遠藤委員、寺島委員 （計5名）

<事務局> 関澤総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長、北川建設水道部長、亀  
淵教育部長、松木農林課長、本田商工観光課長、小笠原企画振興課長、猪股企  
画振興係長

<受託事業者> フラノデザイン(株) 中村、大曾根

### 1. 開会（午後2時00分）

- ・事務局より、委嘱状の交付の省略、シティプロモーション戦略構築業務及び総合計  
画伴走業務をフラノデザイン株式会社へ委託、委員の欠席委員について説明。

### 2. 市長挨拶

- ・第1回の富良野市総合計画総合戦略有識者会議に、それぞれご多忙のなかご出席を  
いただきましたことに感謝申し上げます。また、今ほど委嘱状の関係でお話があり  
ましたが、本来直接委嘱状を交付させていただくべきところでございますが、コロ  
ナ化ということでご理解いただきますよう、お願い申し上げます。
- ・さて、昨年度スタートした第6次富良野市総合計画ですが「『美しい』のその先へ。  
WAわがまち、ふらの」をスローガンとさせていただき、一歩ずつ取り組みを進め  
1年が経過したところでございます。計画の推進にあたっては、デジタルと共創の  
2つの基本アプローチを軸として、ひと、しごと、まち、自然の4つのWAを事業  
の中心として取り組んだところでございます。
- ・本日の会議では、令和4年度で前期基本計画が終了することから、令和8年度まで  
を計画期間とする中期基本計画の基本的な方向性をご議論していただくとともに、  
重点施策にあります「シティプロモーション戦略の構築」についても、みなさんと  
意見交換させていただきたいと思っております。
- ・富良野市を形作っていく、あるいは市民の満足度を高めていく施策を作りあげる会  
議でございます。忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げ、開会にあた  
っての挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

### 3. 議題

#### (1) 第6次富良野市総合計画【前期基本計画】の進行管理について

別添資料に基づき、小笠原企画振興課長より説明

<質疑> 特になし

#### (2) 第6次富良野市総合計画【中期基本計画】の策定について

別添資料に基づき、小笠原企画振興課長より説明

<質疑> 特になし

○欠席している荒木委員より事前に提出のあった意見について紹介と事務局見解

#### 1. 戦略 しごと2 雇用者所得

- ・税務課市民税データから市民所得の経年データを有識者会議資料として報告してい  
ただけないでしょうか、ご検討をお願いします。

【小笠原課長】

- ・本日は該当情報については準備ができておりませんので、担当部署と協議させていただき、次回会議への提供について準備を進めます。

## 2. 計画・戦略 デジタル 基本2 「デジタル化により効率化した行政の業務数」

- ・件数だけでなく効率化による低減業務時間の計測値を明確にしてほしいと思います。その中で次年度以降への低減業務時間のKPIも策定していただくことが望ましいと思いますが、ご検討をお願いします。

### 【小笠原課長】

- ・所管部署とも協議をさせていただき、どこまでの数値を出すことが可能なのかという部分も含めて、検討させていただきます。

### 【西野室長】

- ・具体的な効果につきまして補足させていただきます。まずは、会議でのiPadを活用したペーパーレス化により、約59000枚の紙の節減効果がありました。また、AIを活用した音声の議事録化により、延129回の庁内の会議で活用し、119時間の業務時間の削減効果がありました。さらにロボットによる申請書の入力作業、RPAの導入により業務の効率化を図ったところです。

## 3. 計画基本施策 8移住・定住 移住情報サイト新規ユーザー数

- ・ユーザー数を伸ばす具体的施策を報告いただきたいと思います。また、今後さらに何を行うべきなのか具体策を策定し実施すべきと思いますが報告いただければと思います。

### 【小笠原課長】

- ・現在リビングフラノを中心に各種SNS等により情報発信を行っていますが、更なるアクセス向上は課題と認識しています。今後につきましては、ワーケーションなどの関係人口等の取り組みとの連携を図るなかで相乗効果を図り、更なる情報発信等を進めたいと考えています。

## 4. 市内出身高校生の市内事業所就職率

- ・どのようなことをすべきか関係機関と協議を進め具体策を決めることが望ましいと思います。報告いただければと思います。

### 【小笠原課長】

- ・今後に向けた貴重なご意見ということで、関係機関との協議の検討が必要かと考えています。

## 5. 中期基本計画の策定について

- ・人口ビジョンについて、道総研に依頼して戦略で使用した未来予測との乖離等を毎年観測し、有識者会議で情報共有することが望ましいと思います。2020年の国勢調査を元にした社人研の将来予測は令和5年3月頃の公表予定で、人口ビジョンの見直しを令和5年度中に行い、令和6年から施策等を実施していくことが望ましく、令和8年まで着手しないと悪影響が大きくなると思います。

### 【小笠原課長】

- ・社人研の人口予測の公表のタイミングとの連動や、また、毎年の調査となりますと現実的に難しい部分もありますが、一方で人口予測に関して大きな乖離が出てしまうと問題があるとも考えていますので、分析にあたりましては予算上の都合もありますが、令和5年度の社人研の公表とあわせて分析を行い、情勢によってそれ以降も出来るだけ早い段階で分析に着手することも視野に入れたいと考えております。

## (3) シティプロモーション戦略の構築について

別添資料に基づき、フラノデザイン(株)大曾根氏より説明

### <質疑>

#### 【横井委員】

- ・私が住んでいる東山地域は人口減少と高齢化が進んでいます。シティプロモーション

を進めることで、こうした地域課題の解消に繋がるのでしょうか。

【大曽根】

- ・プロジェクトメンバーと話をしたことを前提に個人的な見解になるかもしれませんが、市民の方々にとって農とスノーに焦点を当て取り組むことで、エリアごとの特徴も浮かび上がり、その特徴についてスポットライトがあたるのではないかと考えています。
- ・簡単なことではないとは思いますが、東山地域の資源や魅力や実は知らなかったことについて繋がることで、地域のうごきに繋がるキッカケになると思います。また内外に東山地域を知ってもらうことで、地域としてプラスにしていくことにもつながっていくことにもなるかと思えます。

【吉中委員】

- ・シティプロモーションを進めていくことは必要と考えています。失敗を恐れやらないのではなく、失敗を恐れずに進めてほしい。そのことで様々な変化を生んでほしい。市民が富良野市を好きになってもらい、PRしていく形をつくるのが大事なことで考えます。また、人口減少を進んでいくなかで、待っているのではなくて工夫をするなど取り組み必要と考えます。

【北会長】

- ・貴重なご意見としてお伺いします。

【山崎委員】

- ・富良野はエリアごと、例えば麓郷、北の峰、山部、東山など特徴のある地域があることから、エリアごとに魅力を発信することも必要かと思えますが、富良野市はコンパクトシティを推進していると聞いており影響があるかどうかお聞きします。
- ・軸で「稼ぐ」とありますが、市が稼ぐのか、市民が稼ぐのか、お聞きします。

【牛島委員】

- ・一般論になりますが、富良野市でいうコンパクトシティ化は、市街地域が広がっている現状があるのでそれをコンパクト化するのは重要なことだと考えます。各エリアを市街地にまとめるということは、いわゆるコンパクトシティとは違う発想になるかと思えます。

【藤田委員】

- ・同じ富良野市街地でも旧市街地から北の峰等の郊外へ動く人も増えてきた結果、色々な施設が効率的に使われなくなったことから、それらを効率的に使っていくことがコンパクトシティの一つの考え方です。富良野市は他のまちと比べるとコンパクトな形となっていますが、そういう考え方を進めていこうという発想です。

【大曽根】

- ・稼ぐに関してですが、これからの議論にもなるかと思えますが、市が稼ぐという部分で言えば直接的にはふるさと納税があるかと思えますし、また、市民に関しても、農、スノー以外でも様々な分野で関連がありますので、どちらか一方が稼ぐということではないと考えています。

【糠谷委員】

- ・ゆるぎない誇りをもって「農・スノー」に取り組んでいくということですが、ゆるぎない誇りは個人から発生するもので、農・スノーのブランディングをしっかりと進めていくことが必要だと感じました。例えば、富良野市に来る方のなかには、富良野の冬の景観を見るために数カ月滞在すると聞いています。富良野にはピースフルな場所も多くあると思えますので、10月の具体的な検討に向けて参考になればと思います。

【大曽根】

- ・資料17ページの「検討時に繰り返し語られたこと」の下から3行目に「動きが創り出されていく（行動変容）が重要」と記載しています。行動変容となっていますが、糠谷委員のお話のとおり、それぞれいいな、やってみようと思えるキッカケは人それぞれかと思えますので、結果として行動変容につながるような接着する仕掛けをどう作っていくのかということも大事かと思えます。

【横井委員】

- ・東山や麓郷等景観の良い場所はたくさんあるが、建物を建てたりするのに規制があるので、こうした規制を取り除くことはできないのでしょうか。
- ・公共交通は生活や経済の基盤であることから、バスやコミュニティバス等を利用した場合、一律500円にすることで地域の活性化につながると考えます。
- ・不登校の支援のために東山の景観を活かしたフリースクールもニーズ等があるのではないのでしょうか。
- ・上記について、自分なりに事前学習をして、アイデアを書き出してみましたが、プロジェクトで取り扱っていただくことは可能でしょうか。

【大曾根】

- ・提供いただけるとありがたいです。すぐに出来ることではないかもしれませんが、議論を進めていくなかで参考になるポイントになるかと思います。

【北会長】

- ・交通のお話しもありましたが、現在市では公共交通計画の作成を進めているところですので、今のお話は参考にさせていただきたいと思います。また、学校の話もありましたが、少子化で子どもたちの人数も減ってきているなか、子どもたちにとって良い教育環境を作るため、東山地区では義務教育学校を設置しています。各地域の魅力ある取組ということで今後も進めて参りたいと考えております。

【桑原委員】

- ・小学校の教育課程で未来プロジェクトという取り組みがあり、昨年の本校の6年生に行ったアンケートで富良野が好きですかという問いに対し、100%の子どもが好きと回答しました。質問を変えて、ずっと富良野に住みたいですかという質問では、残念ながら数字が下がりました。理由は子どもなりのなんとも言えないような将来に対する不安や、単純な都会へ憧れなど、様々な要因があるかと思います。シティプロモーションの説明のなかに「富良野の誇りをもう一度磨き直す」とあったと思いますが、そもそも富良野の誇りって何って問われると非常に抽象的で様々なワードが出てくると思います。我々学校現場でも富良野には魅力や誇りがありすぎて焦点化できないのが正直なところですよ。
- ・学校としてこれまで何か誇りを担うために何か取り組みをしてきたかと言えば申し訳ないですが、強くこれですというのが無いのが正直なところですよ。
- ・シティプロモーションを進める上での3つの視点のなかで学校はまさに人づくりを担う重要な場所であると改めて強く認識したところですよ。富良野市の魅力、強み、誇りということを焦点化されることで我々学校現場としても大切な貢献ができると思っています。
- ・3年ぶりにへそ祭りが開催されて私も踊りましたが、とても楽しかったです。まちもコロナ化で不安な要素もあったかと思いますが、まちが元気だなと感じたところですよ。2年間のコロナ化において、富良野市も失われたものが多くあると思うが、シティプロモーションを進める上でコロナにおけるダメージはあるのでしょうか、

【大曾根委員】

- ・非常に心強いお言葉をいただいたと考えています。プロジェクトチームや推進委員会においても教育の重要性・親和性について話が上がり、農・スノーという二つの具体的なテーマを設定することで、環境や地域を知る探求的な取組など、より学校とのコラボできる環境を整えられると思っています。
- ・正直、コロナをイメージした議論はありませんでしたが、最終的に稼ぐという議論をしたときにそうしたイメージを持って議論はしていました。

【藤田委員】

- ・富良野市の人口が2万人を切る状況から危機感を持っています。このシティプロモーション戦略が構築されることで人口減少に歯止めがかかることを期待していますし、小さくても豊かなまちをつくるという視点で進めていただきたいと思います。

【北会長】

- ・貴重なご意見としてお伺いします。

【飯沼委員】

- ・先ほど子どもたちの話がありましたが、思い出すと富良野市の開庁100年事業で子

ども達が演劇祭に参加してすごく成長したと感じました。当時から思っていたことはこのまちで生きるということはどういうことなのか、生きるということは、心の健康や肉体の健康、健康づくりのもとになる食という点で富良野には豊かな食材があり、そこから富良野のオムカレーが始まりました。演劇祭では心の健康を育んだと感じています。富良野では人を大事にしていくというまちになってほしいと思っています。最後は富良野で育って良かったと思えるような形が理想です。

- ・ そうしたまちにするために我々個人がどういう努力をしたら良いのかという点を考えたとき、30年前から協働という言葉も出てきましたが、行政と僕らが一緒にまちづくりを進めるという柱のもと、シティプロモーションを進めてほしい。

#### 【北会長】

- ・ 昔から楽しみとか楽しさあることで人が動くキッカケになるかと思っています。今のシティプロモーションは魅力とか色々と表現がされていますが、住んでいる人がいくつになっても楽しく住みつづけるまちをつくるのが一番大事なことなのかと思っています。貴重なご意見としてお伺いいたします。

#### 【牛島委員】

- ・ 人が少ないなかで富良野の良さをどう維持していくのか、今回農をテーマということですが、我々も富良野で研究させていただき、地域イベント等で農家が果たしている役割は非常に高い一方で、農業者の時間がどんどん無くなっているのが実態となっています。そうした中で、農家と地域との関わりについてこれから掘り下げて深化させていくことは研究側として必要なことと捉えていて、今回農をテーマにすることは、我々が考えていたことに沿った形であり、ここを掘り下げないと富良野の良さを維持できないと考えています。また、農家さんについて色々な調査をさせていただいて接点がありますが、農家さんは本当に格好良いですね。特に背中が格好良いと思っています。
- ・ 庁内横断のチームで継続的に議論を進められているかと思いますが、市役所の地の力としてもものすごく蓄えているのではないかと考えています。他の市役所ではそう簡単に横断的なプロジェクトということは出来ていません。議論からずれてしまいましたが、これも大きな価値だと思ったところです。

#### 【小笠原課長】

- ・ 横断的な体制については、庁内の計画策定等の場面で協力しながら進めていくという視点で様々なチームを立ち上げているところです。土壌としてあることは私ども担当しても感じています。担当業務以外に関わることで視点が広がるといった職員育成の効果もあります。

#### 【大曾根委員】

- ・ 農という部分で道総研さんと認識が一致していることは心強く、今後もお相談させていただければありがたいと考えています。農業については、本当にクールで魅力的でありながら、その魅力になかなかフォーカスされていないところもありますので、人というところを焦点化してフォーカスすることも大事なことかと思っています。
- ・ 総合計画の策定や昨年度の共創の取り組みについても庁内横断チームとして進めましたが、不安もありつつ関わるなかで、参加する職員も労力を割いて調整されて大変ではないかと思っています。こうした動きに参加することは、間違いなく今の部署や他の部署に移ったときに大きな財産になると考えています。

#### ○欠席している荒木委員より事前に提出のあった意見について紹介と事務局見解

＜まちづくりには地域住民の愛着度の形成は波及効果が大きいと思います。＞

- ・ 行政は「市民が幸せを感じる生活をするための施策の企画・立案・実施」  
そのうえで
- ・ 幸せを感じるためには生活していて嬉しいと感じる、広い意味での「生き甲斐」と、一定の収入が絶対条件と思います。  
(一定の収入には多くの人の雇用が担保され、雇用者の収入増が期待されます。)
- ・ シティプロモーションの軸・方向性は「しごと(稼ぐ)に軸足を置くシティプロモーション」とすることは大いに賛成ですが、その際は磨き上げと拡張性を重視していただきたいと思います。
- ・ 重点シナリオは「農・農作物等」と「スノー・雪・スキー等」とされていますが、富

良野の観光客は夏場の方が多く、国の認定・支援は「スノー・雪・スキー等」となっておりますが、自然を夏冬同時のシティプロモーションとされた方が良いと思います。ただ、夏観光とのプロモーションの方が、結果を出しやすいのではないかと思います。

- ・自然・アウトドア、スキー等の観光施設だけでなく、飲食・宿泊とも、個店にリピーターが多く見受けられ、この集合体が観光客の入り込みとなっていることから各個店の魅力を頼前面に出す施策を考えた方が良いと思います。
- ・アドベンチャートラベルを強力に推進し、春夏秋冬全ての時期で富良野にあるモノを活用した、新たなATをメニュー化し提供することはどうでしょうか

例えば

- 1) ゴンドラ頂上駅屋上で、厳選素材による「5万円/人のランチ提供」
  - 2) 5万円/人で「エゾシカ料理付きエゾシカハンター同行ツアー」
  - 3) 北海道にしかないない落葉キノコを活用し「料理付き落葉キノコ採りツアー等」
- 但し、その為にはアウトドアガイドの養成と収入担保策も必要と思います。

【小笠原課長】

- ・軸等の方向性についてはご賛同いただき、プロモーションの手法として、夏観光やアドベンチャートラベル等の具体的なご提案をいただきました。シティプロモーション戦略については今後のワークショップ等での検討もございますので、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

【大曽根】

- ・シティプロモーションについては議論の途中であり、本日の議論でありましたが、効果の波及や稼ぐ、人口、地域、教育、個々人の想い等、多岐にわたることになり、KPIの設定で全部網羅することは非常に難しいという部分ではプロジェクトのなかでも話がありました。次回の会議では KPI についても議論することになるかと思いますが、現段階の状況について共有させていただきます。

#### 4. その他

【山崎委員】

- ・PRの部分で市のホームページについてですが、リニューアルされていますが、情報をどこからとったら良いのかわからないという声があります。もう少し情報を取りやすい形にしていきたいのと、地域イベント、例えば山部、東山等のイベントを市のホームページでPRしてほしい。更新作業はどこで行っているのか。

【西野室長】

- ・昨年度市のホームページをリニューアルさせていただき、カテゴリーとして「暮らし」「観光」「子育て・教育」「移住定住情報」として整理したところです。検索の方法としてサイト内にキーワードを入力することが現在一般的な形となっていることから、本市でも同様の方法をとっています。
- ・更新については各課からの情報公開等についてスマートシティ戦略室に依頼があり更新を行っているところです。

【山崎委員】

- ・情報更新を部署にお願いしたが更新されていなかったのでお伺いしました。

#### 5. 今後の予定

- ・今後の有識者会議日程について事務局より説明

#### 6. 閉会（午後4時00分）

【北会長】

- ・長時間にわたり真摯なご議論ありがとうございます。今後の予定ということで次回は11月という報告をさせていただきましたが、9月26日が新庁舎の供用開始となります。文化会館では最後の会議となり、また、次回は新庁舎での会議となりますが、引き続きのご議論をお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。